

自立活動だより

秋田県立聴覚支援学校
自立活動部
令和2年4月6日発行 NO.1

新型コロナ対策における子どもとのやり取りについて

新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐために、マスクの着用は有効とされています。一方で、聴覚に障害のある子どもたちにとっては、「表情」「口形」等は、会話の内容やニュアンスをつかむ上で重要な情報の一つです。そのため、マスクをつけたままでは、大変な情報不足になってしまいます。

家庭で過ごす時間が長くなりますが、どんなことに気を付けてやり取りしたらよいか、また、マスクをして外出する際などに、子どもとスムーズに会話ができるための工夫を、本校の自立活動部の先生方に聞いてみました。

ぜひ参考にしてみてください。



家族とは基本的には音声でやり取りをしています。マスクをしていても音声は手がかりになるので、しっかり声を出してもらえるとありがたいです。実物が近くにあるときは示してもらいながら話してもらいますが、どうしても分からないときは、空書してもらうことが多いです。

学校でも、話の流れから想像しながら、手話と音声をあわせて情報を得ているので、うまく伝わらないと感じたときは、文字で示すことが大切だと思います。

加賀谷先生

- ・家族とは、基本的に手話や筆談でやり取りをしています（音声の聞き取りは難しい）。
 - ・マスクのまま「チョコ味とイチゴ味のどっちがいい？」と話すより、指で商品を指し示しながら「(チョコ味)(イチゴ味)どっちがいい？」など、視覚的な手掛かりを示すと分かりやすいです。
 - ・メモ帳やスマートフォンのメール機能などを活用して、文字として提示する方法もあります。
 - ・マスクをしていても、眉毛や目で表情を読み取ることは可能です（少しだけですが…）。
- 音声や身振り、手話、表情などをいつも以上に大きく示すことが大切になってくると思います。

赤平先生

特に小さいお子さんの場合、聞こえる聞こえないに限らず、表情は、気持ちを共有するためにも大切な要素となります。マスクをした場合は、表情は分かりにくく、マスクで遮られ、音声も聞きづらくなります。あいまいな音の情報を補うためには、今までよりも音声や身振り、手話、表情等を大きく、たくさんつけることが大切です。また、実物、絵や写真等の視覚的な手段も有効です。絵カードや写真カードを手元に置いて、またことば絵辞典等で確認しながら親子で関わる時間をたくさんとれればと思います。

藤盛先生

お互いに伝えたつもり、分かったつもりになっていないか気をつけたいですね。

